

資料 1

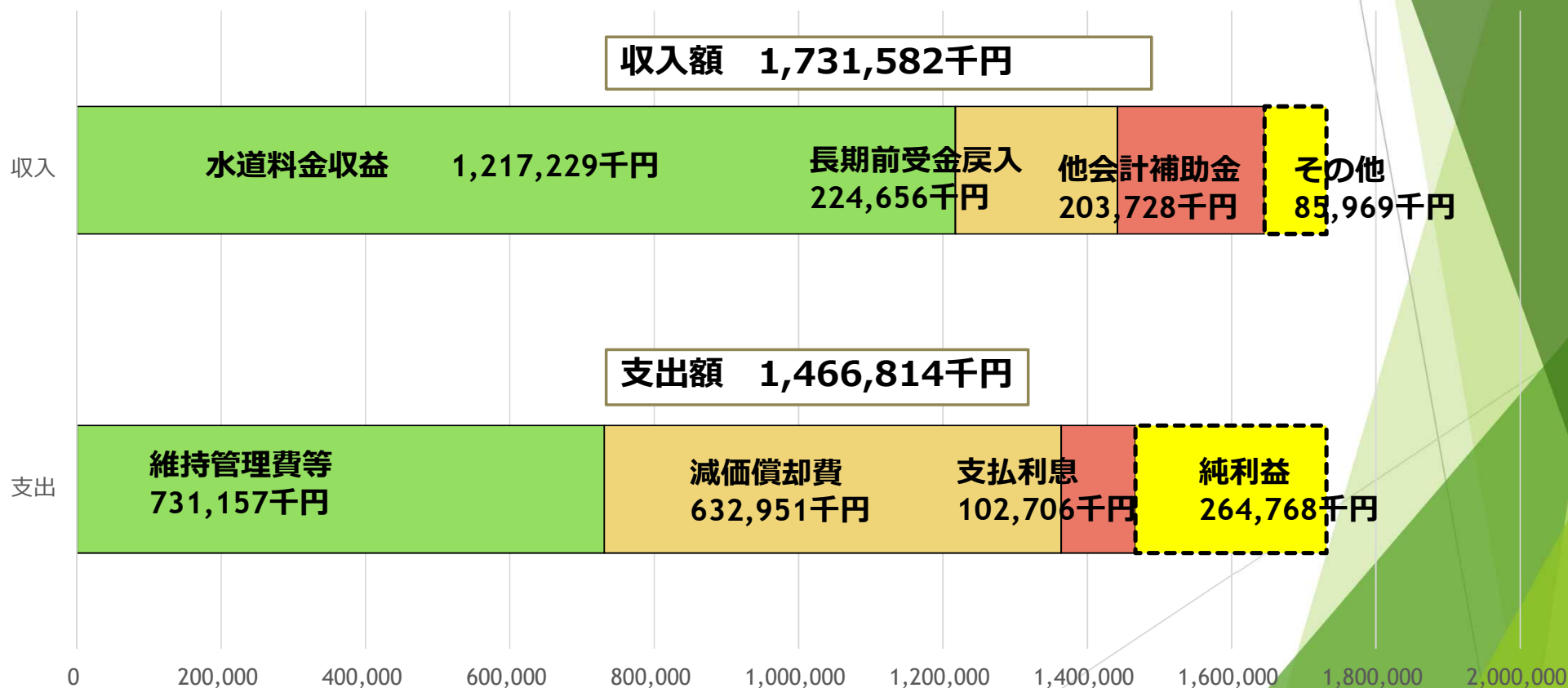
# 令和2年度 行田市水道事業会計 決算（案）について

# 事業概要

事 項	単 位	令和2年度	令和元年度	前年度との比較		
				増・減	比率 (%)	
年度末給水人口	人	76,949	77,598	△ 649	△ 0.84	
給水区域内人口	人	79,910	80,506	△ 596	△ 0.74	
普及率	%	96.29	96.39	△ 0.10	-	
年度末給水戸数	戸	34,745	34,583	162	0.47	
配水量	年間	m <sup>3</sup>	9,858,179	9,660,774	197,405	2.04
	一日平均	m <sup>3</sup>	27,009	26,396	613	2.32
有収水量	年間	m <sup>3</sup>	8,804,342	8,737,517	66,825	0.76
	一日平均	m <sup>3</sup>	24,121	23,873	248	1.04
一日最大配水量	m <sup>3</sup>	29,157	28,706	451	1.57	
有収率	%	89.31	90.44	△ 1.13	-	

## 収益的収支【3条：営業活動の結果】

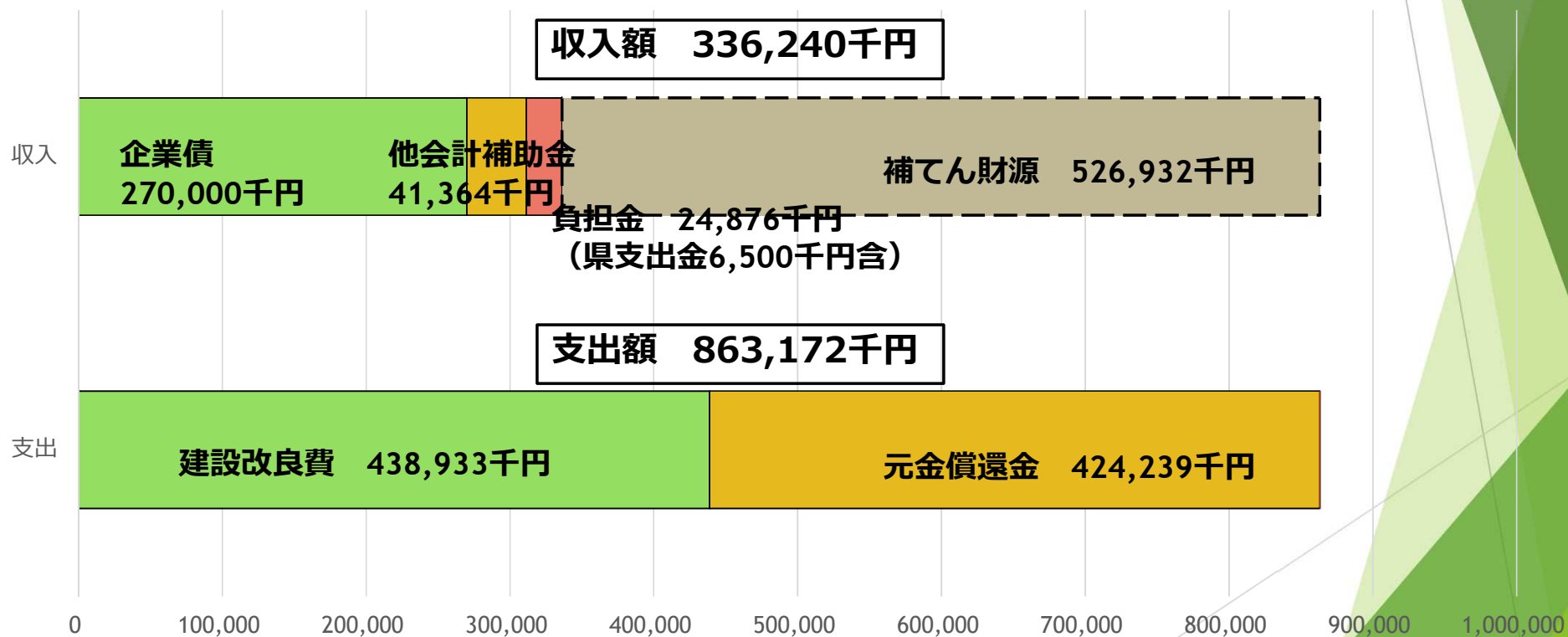
水道水を供給して得た収益と  
水道水を作って、各家庭に水を配るための経費



## 資本的収支【4条：建設部門の結果】

水道管を布設するための負担金や企業債（借入金）  
水道管布設・施設更新や企業債償還金などの経費

(税込み)



# 令和2年度の主な事業内容

## ▶ 令和2年4月1日から 平均12%の水道料金改定

- 経営戦略上の令和2年度料金改定後の純利益は、1億8千万円でしたが、長期前受金戻入額1千2百万円増額や減価償却費6千9百万円減額により経営戦略に比べ増額となりました。
- 経営戦略時には、平成30年度から実施予定であった向町浄水場中央監視装置等更新工事を資金不足から、令和3年度に工事期間を変更のため減価償却費が減少し純利益が増加したものです。
- 皆様のご協力により水道事業経営戦略に沿った安定した経営となっている。

## ▶ 新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年7月分から10月分までの水道基本料金無料化

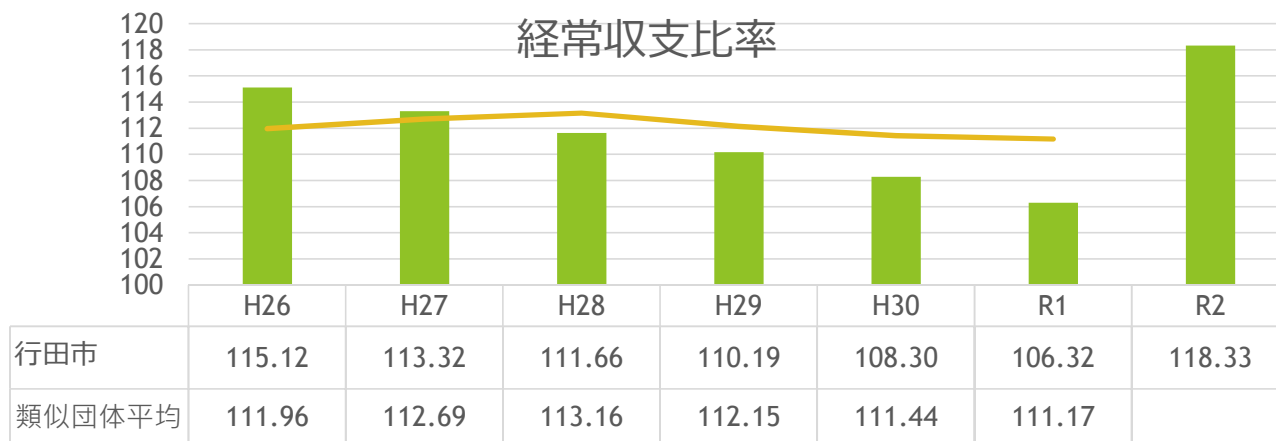
- 69,845件 193,434,300円を基本料金無料化にしました。
- 無料化した金額は、P2収益的収入の他会計補助金として繰り入れています。  
(新型コロナウイルス対応創生臨時交付金を活用)

## ▶ 建設改良工事として、29件実施(398,087千円)

- 料金改定後の収益を見込み、令和元年度に比べ、工事費は1億円の増額となりました。

# 経営分析

## 経常収支比率



■ 行田市    — 類似団体平均

### 指標の意味

収益（3条）で維持費等がどの程度賄えているかを表す指標。100%以上が良いとされている。

### 行田市の状況

料金改定により118%以上となっている。

## 有形固定資産減価償却費率



■ 行田市    — 類似団体平均

### 指標の意味

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。減価償却が進むと耐用年数に近い（老朽化した）資産が多い。

### 行田市の状況

約50%の資産の減価償却が進んでいる。